

Ⅱ類の「学力奨学生」

自らの能力や適性にあった進路を自由に選択し、勉強や部活動に高い意欲で取り組めるよう経済的に支援する制度です。学園を創立した豊川閣妙厳寺の出資により給付される「豊川閣育英奨学金」があり、[A]、[B]の区分があります。



◎給付される奨学金

[A] 入学金および年間授業料に相当する額を給付します。

[B] 入学金の半額に相当する額および月額5,000円を給付します。

◎学力奨学生の応募資格（令和6年度入試）

本校の学力奨学生に応募することができる生徒は、推薦入試を受験し、次の各奨学生資格のすべてに該当する者とします。Ⅱ類の推薦入試受験者の成績上位者から選抜します。

【学力奨学生[A]】

- ① 学力および人物に特に優れ難関大学進学を目指す者。
- ② 推薦入試で「Ⅱ類選抜クラス」の編成に出願し、入試学力試験の成績が特に優れる者。
- ③ 3年2学期の5教科評定24以上の者。

【学力奨学生[B]】

- ① 学力および人物に優れ難関大学進学を目指す者。
- ② 推薦入試で「Ⅱ類選抜クラス」の編成に出願し、入試学力試験の成績が優れる者。
- ③ 3年2学期の5教科評定20以上の者。

TOYOKAWA HIGH SCHOOL



TOYOKAWA

Ⅱ類の学びが「シンカ」します。

METHOD

2024



Ⅱ類の「学習指導」～Ⅱ類の学び方が「進化」する～

「難関大学進学」を目指すカリキュラム

近年の名古屋、岐阜(医)、北海道、慶應、上智、東京理科などの難関大学合格へのプロセスを体系化。「得意」を伸ばし、武器にすることで難関大学現役合格を目指します。



「32単位」で効率よく学ぶ

週32時間の授業(週2日7限、3日6限)で難関大を目指します。3年間しかない高校生活。自分のやりたいこと、好きなこと、得意なことに思いっきり取り組める。そんな学びの環境を提供します。

「7限補習」で1年次からの受験対策

6限授業で終わる日は「7限補習」を選択できます(登録制)。1年次は国語、数学、英語の主要教科。受験演習のための土台づくりが始まります。年間の補習は4期制で、シラバス(主な学習内容)をもとに自由に選択できるようになっています。



「習熟度別授業」で得意を伸ばす

Ⅱ類の英語、数学は習熟度に分かれた同時開講授業となります。入学当初は本校の入試得点にて、その後は定期試験や模擬試験の成績により習熟度クラスが編成されます(年4回のクラス替え)。「苦手」は基礎から丁寧に、「得意」はより深く学ぶことができます。

「アウトプット」で理解の定着

「祖母に説明できない限り、本当に理解したとは言えない」(アインシュタイン)。知識の詰め込みだけでは効果的な学習はできません。Ⅱ類の授業では、人に教える、全体に説明する、アウトプットの機会を大切にしています。「思考」を深め、「主体的」に学ぶ姿勢が身につきます。

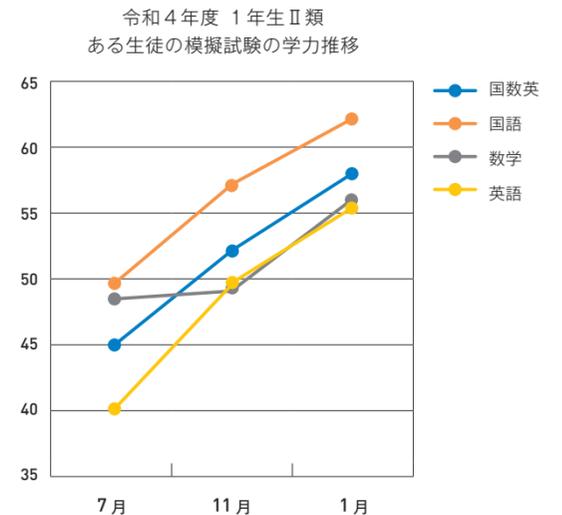


「VIRTUAL入試」で入試本番を仮想

Ⅱ類では、1年次7月の模擬試験で、国公立3校、私立3校を志望校と定めて受験します。

多くの生徒は「聞いたことがある」とか「親や兄姉の大学」で志望校を書きますが、最初はそれでも大丈夫。設定された「合格ライン」をもとに、模試の得点で「VIRTUAL合格」を算出し、その大学の難易度を体感します。11月、1月と回を重ね、どんな大学にどんな学部が設置されているのか、将来どんなことを学びたいか、明確になっていきます。

模試対策もしっかり行うため、全国偏差値がぐんぐん伸びていき、「VIRTUAL合格」を目指して意欲的に学んでいきます。



「受験プラン」で第一志望合格

上記の模擬試験の取り組みは、志望校の合格ラインを突破するための学習計画を立て(Plan)、日々勉強に励む(Do)、模試を受験し(Check)、結果をもとに次回の模擬試験に向けた改善を図る(Act)、「PDCAサイクル」で進められていきます。受験本番に向けても、絶対にゆずれない「第一志望合格」を目指して、綿密な「受験プラン」を立てたら、あとは実行あるのみ。「VIRTUAL」の経験を活かして、自信を持って受験勉強に励むことができます。

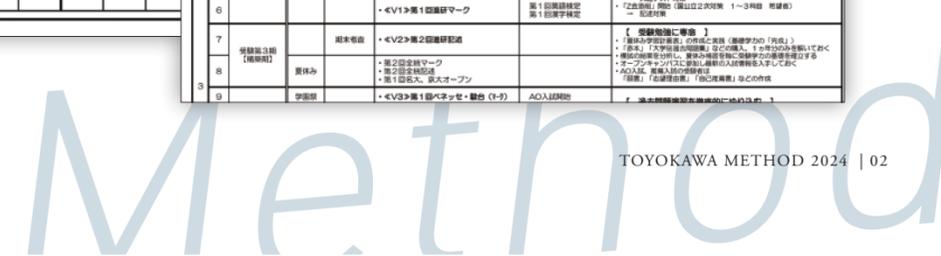
受験プラン(最終) < 記入例 > → 12/18.22 提出 ()組 ()番

第一志望	名古屋大学	目標得点	第二志望	名古屋大学	目標得点	その他
国語	100	100	95	95	95	
数学	100	100	95	95	95	
英語	100	100	95	95	95	
合計	300	300	285	285	285	

「受験第4期 学習計画表」【 強気で行く「完成期」】 9/1~11/31 (91日間)

()組 ()番 氏名 ()

月	学期	行事	定期考査	試験	模試試験	受験勉強
9	1	入学式	入学考査	入学考査	入学考査	入学考査
10	1	10月11日考査	10月11日考査	10月11日考査	10月11日考査	10月11日考査
11	1	11月12日考査	11月12日考査	11月12日考査	11月12日考査	11月12日考査
12	1	12月13日考査	12月13日考査	12月13日考査	12月13日考査	12月13日考査
1	2	1月14日考査	1月14日考査	1月14日考査	1月14日考査	1月14日考査
2	2	2月15日考査	2月15日考査	2月15日考査	2月15日考査	2月15日考査
3	2	3月16日考査	3月16日考査	3月16日考査	3月16日考査	3月16日考査
4	2	4月17日考査	4月17日考査	4月17日考査	4月17日考査	4月17日考査
5	2	5月18日考査	5月18日考査	5月18日考査	5月18日考査	5月18日考査
6	2	6月19日考査	6月19日考査	6月19日考査	6月19日考査	6月19日考査
7	2	7月20日考査	7月20日考査	7月20日考査	7月20日考査	7月20日考査
8	2	8月21日考査	8月21日考査	8月21日考査	8月21日考査	8月21日考査
9	2	9月22日考査	9月22日考査	9月22日考査	9月22日考査	9月22日考査



Ⅱ類の「探究学習」～Ⅱ類の探究学習が「深化」する～

Ⅱ類の3年間で「課題解決プログラム」に取り組む

経済、産業、人口減少、医療、自然環境など私たちを取り巻く社会環境には様々な解決すべき課題があり、ここ豊川市も例外ではありません。Ⅱ類の「総合的な探究の時間」では、高校生の視点から豊川市の「まちづくり」について探究活動を行います。



1年次は「地域の課題」を知る

日本社会の抱える課題について、大学教授や研究機関の職員を招いての講演会を実施します(年4回)。その上で、より具体的な地域の課題として、豊川市の関係者から直接、講義を受けます。いくつかある課題の中から、自分なりの解決プランを探究し、クラス内で共有します。年度末には、1年のクラス代表者が、Ⅱ類3学年全体の前で「地域の課題解決プラン」のプレゼンテーションを行います。

2年次は「課題解決の方途」を大学教授と考える

1年次に探究した「地域の課題解決プラン」について、学問の見地からさらにブラッシュアップを図ります。クラス内や全体会での共有をもとに、取り組む課題を変更しても構いません。

その課題を解決するためには、どんな学問に組み込めばよいのか、どの学部、学科、どんな教授がその課題解決に係る研究をしているのかを探します。そして、その教授の研究室を訪問し、自分なりに考えた「課題解決プラン」について、ご意見を伺うのです。

例えば、「地域の電力不足をいかに解消するのか」という課題に対して、「原子力発電の安全な運用」を研究する名古屋大学の教授のもとを訪問する、といった具合です。そこで得た新たな知見は、クラスで共有し、年度末にはクラス代表者によるプレゼンテーションとなります。Ⅱ類3学年全体の生徒とともに、近隣の大学関係者や豊川市の担当者にも聞いていただき、評価をいただく予定です。ひょっとすると市政を動かすことになるかもしれません。



3年次は「卒業論文」に取り組む

2年次までの「地域の課題解決」への探究活動を総括し、専門的な学術機関(大学教授)からの知見も踏まえ、最終的なプランを「卒業論文」という形でまとめます。この論文はデータファイルとして保存されるとともに、模造紙に出力し、9月下旬の学園祭にて「Ⅱ類探究ブース」展示教室で展示されます。

高校生が考えた「地域の課題解決」。すぐには解決できないものばかりかもしれませんが、未来を見据えてこの地域の課題を主体的に解決しようとする若者がいる、それだけで「魅力のあるまち」だとはいえませんか。

3年次のⅡ類ESD

「今、世界には気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大等人類の開発活動に起因する様々な問題があります。ESDとは、これらの現代社会の問題を自らの問題として主体的に捉え、人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、身近なところから取り組む(think globally, act locally)ことで、問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらし、持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動です。つまり、ESDは持続可能な社会の創り手を育む教育です。」(文部科学省HPより)

3年次になるとⅡ類は「Ⅱ類ESD」の授業が週2時間設定されています(Ⅲ類にはありません)。ESDとはEducation for Sustainable Developmentの略で、「持続可能な開発のための教育」と訳されます。3年間の総合探究の集大成として、卒業論文に取り組めます。



Ⅱ類の「自主学習」～Ⅱ類の自主学習に「真価」がある～

「自主学習室」の 全面リニューアル

多くの卒業生が、塾へ通わず難関大合格を勝ち取った「自主学習室」。間仕切りのあるブース席で集中して勉強できる環境が全面リニューアルします。

さらに明るく、開放的で機能的な学習室へと改修されます。現在4教室に180席のブース席数も増加され、多くの生徒が授業後の学びの主戦場として活用していくことになります。



「卒業生AT」による 個別指導

卒業生がAT(アシスタントティーチャー)として個別指導に対応します。具体的な教科に関する疑問から、部活動との両立などの高校生活の悩みまで、難関大学に進学した先輩の生の声には説得力があります。受験勉強の秘訣や、おすすめの問題集、高校生活の楽しみ方まで、何でも話せる先輩ときっと出会えるはずです。

「アクティブ」な学びに 対応する環境

リニューアルされる自主学習室には、静かに学習を進める「ブース教室」、先生やATから個別指導を受ける「指導室」、さらに友達と議論を交わし教え合う「ALR」(アクティブラーニングルーム)が設置されます。授業後の学びの中にも、「主体的に学ぶ姿勢」を身につける環境が整っています。



Ⅱ類の「進路実現」

藤田 瑞樹 (令和4年度卒)

名古屋大学1年

(豊川市立代田中学校出身)



豊川高校の強みは、生徒の将来を後押しすることができる環境にあると考えています。各部活に充実した施設があり、一人ひとりが使える自習室や質問に丁寧に答えてくれる先生方がいます。しかし、恵まれた環境をどれだけ活用できるかは自分次第です。豊川高校に入れば、自然と学力が伸びるわけではありません。恵まれた環境の中、ただ口を開けているだけでは真の学力は身につけません。

実際、私も豊川高校に入れば…そう思っていました。施設の良さ、先生方の熱意の素晴らしさ、豊川高校の良さを実感したのは、3年生になり真剣に受験勉強に取り組むようになってからです。

豊川高校は、自分のやりたいことに全力で取り組むことができる環境があります。まずは、どんなことでもいいので夢中になれることをみつけて取り組んでみてください。自分で選んだ道が正しいか分からなくても、全力で取り組んでみてください。君の力でその道を正解にしてください。元来、決まった正解の道なんてないのですから…。豊川高校はみなさんの真剣な挑戦を必ず後押ししてくれます。



小泉 奏太 (令和4年度卒)

北海道大学1年

(敦賀市立気比中学校出身)

高校3年間は、硬式野球部に所属し、寮生活を送ってきました。入学当初は、厳しい練習に加え、洗濯など自分で行わなければならない、勉強時間を確保することが難しかったことを覚えています。時間がとれないからこそ、練習でも学習でも、短い時間で最大限の効果を上げることを考えるようになりました。いろいろ試した結果、当たり前のことですが、コツコツと努力することこそ最も大切だということに気づきました。

現代の諸問題をよりリアルに捉え、これからの社会を考察していくために経済学を学びたいと考え、北海道大学への進学を決めました。旧帝大の一つである北海道大学には全国各地から学生が集まっています。いろいろな考えに触れられるので視野が広がっています。アメリカンフットボール部に入り、勉強以外も充実した毎日を過ごしています。これからも、高校で身につけた、努力する姿勢を貫いていきたいと思えます。

後輩の皆さんも今を大切に、自分ができることを精一杯頑張ってください。